



Photo:Fumio Hashimoto

歴史の教科書に登場する『蒙古襲来絵詞』に描かれた元寇防塁が現存する生の松原。鎌倉時代に思いを馳せながら、美しい博多湾の風景を眺める小さな旅に出かけてみよう。

A

JR下山門駅

B

いき
壱岐神社

『日本書紀』によると武内宿禰の身代わりとなって無実の罪で死んだ壱岐直真根子の忠魂を祭った社。「生の松原」の地名は、神功皇后が松の枝を逆にさして戦勝を占ったとき、その枝が生きて栄えたことから付けられたと伝わる。

C

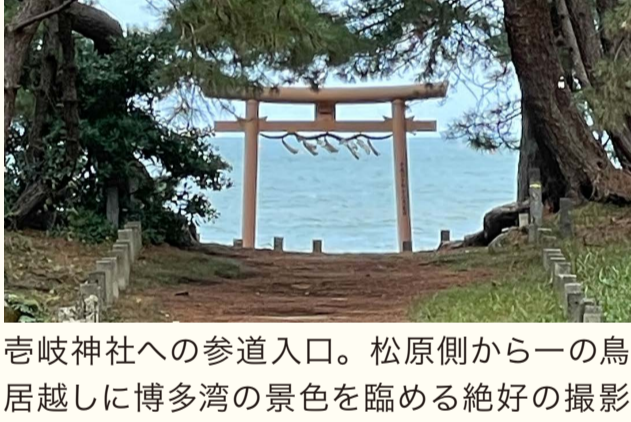
生の松原海岸森林公園



唐津街道沿いに約3kmにわたって広がるクロマツ林。静かな松林を通る壱岐神社の参道は、厳かな雰囲気さえ感じられる。

D

壱岐神社鳥居



壱岐神社への参道入口。松原側から一の鳥居越しに博多湾の景色を臨める絶好の撮影スポット。

E

元寇防塁(生の松原地区)



長垂海岸から小戸海岸にかけての約2.5kmにわたる元寇防塁。発掘調査により、防塁は幅1~1.5m、高さ1.8mに石を積み上げ、陸側を粘土で補強していたことがわかっている。『蒙古襲来絵詞』の、肥後の御家人竹崎季長が防塁の前を馬上で進む場面は、この生の松原の情景。

みどころ スポット

